

群 教 セ	G02 - 05
	平 29. 265 集
	公民

現代社会の諸事象を多面的・多角的に捉え、 自分の考えを表現できる生徒の育成

— 多様な観点を持つ資料を読み取るための
ワークシートの工夫とグループの発表活動を通して —

特別研修員 古畑 春樹

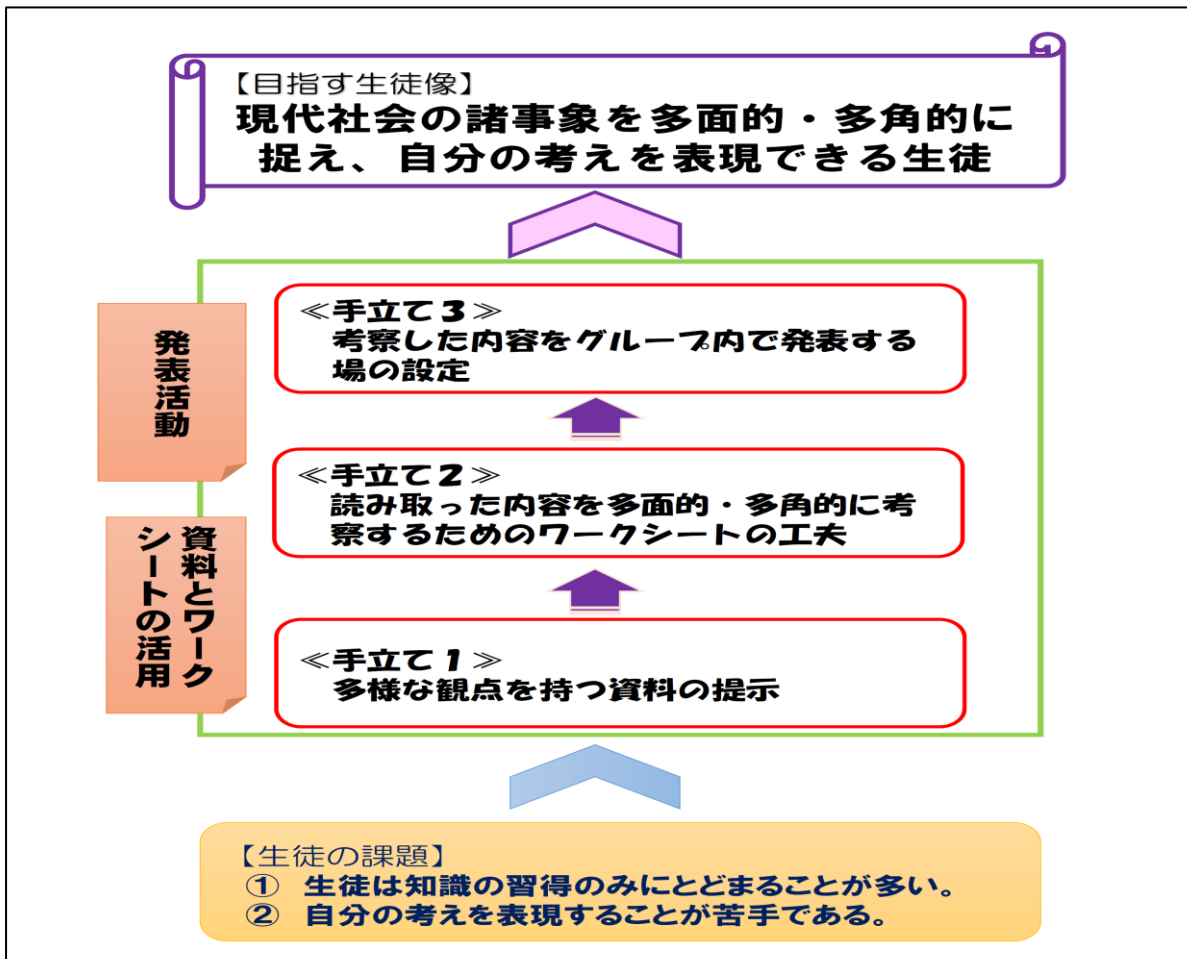
I 研究テーマ設定の理由

平成 29 年度群馬県立学校教育指導の重点における公民の目標では、身に付けさせたい力に「政治、経済、国際関係の諸事象を多面的・多角的に捉え、その動向や本質について客観的に見る力や考える力を育成する」とある。また、その手段として「ICT 機器を効果的に活用しながら、問題解決型学習やグループワーク等、生徒による主体的・協働的な学習活動を取り入れた授業を実践する」とあり、現代社会の諸課題の解決に向けて、生徒による協働的な学習活動が求められている。

所属校では、「現代社会」や「政治経済」を大学入試センター試験の受験科目に選択する生徒が多いので、授業は学習進度と受験対策が最優先となり、教員から生徒への一方的な説明になる時間が多い。そして、生徒は地歴・公民科を主に「暗記科目」として捉え、知識の習得のみにとどまることが多く、自分の考えを表現することが苦手である。この課題を改善するために、現代社会の諸事象に対する知識の習得にとどまらず、多面的・多角的な視点に立ち、自ら考えたことを表現できる生徒を育成したいと考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

現代社会の諸事象を多面的・多角的に捉え、自分の考えを表現できる生徒を育成するための手立てとして、以下の三つを設定した。

手立て1

多様な観点を持つ資料の提示

手立て2

読み取った内容を多面的・多角的に考察するためのワークシートの工夫

手立て3

考察した内容をグループ内で発表する場の設定

手立て1は、現代社会の諸事象について、多面的・多角的に捉えられるような、多様な観点を持つ資料を提示する。生徒は一つの社会的事象について、様々な情報を読み取る学習活動を行う。これは手立て2で、読み取った内容を多面的・多角的に考察する材料となる。また、教科書や資料集に掲載されていない資料を提示することで、生徒がより興味・関心を持って資料に向き合えるようにする。

手立て2は、横列に多面的な項目、縦列に多角的な項目を整理できるように工夫された表を入れたワークシートを使用する。生徒は読み取った内容を活用し、多面的・多角的に考察しながら自分の考えを表にまとめる。ここでは読み取った内容を基に、自分の考えを導き出すことが重要となる。

手立て3は、多面的・多角的に考察した内容を各自がグループ内で発表する場を設ける。発表することで自分の考えがより鮮明になるとともに、他者の意見を聞き、共有することで自分になかった考えを発見できる。更にその他者の考えに対して自分がどう考えるかを再考することでより深い学びになる。

このように、三つの手立てを通して、現代社会の諸事象を多面的・多角的に捉え、自分の考えを導き出し、表現できる生徒を育成していく。さらに発表活動を通して、他者の意見を聞くだけでなく、聞いた意見に対して再考することで、より深い学びとなることも期待できる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て1において、生徒は多様な観点を持つ資料の読み取りがスムーズにできていたとともに、提示した資料に興味・関心を持って向き合っていた。
- 手立て2において、生徒は読み取った内容を活用して、多面的・多角的に考察することができ、手立て3のグループ内での発表活動につなげることができた。これは提示した資料の読み取りが効果的であったからである。
- 手立て3において、生徒は考察した内容に基づいて、グループ内で自分の考えを発表できていた。また、他者の発表を聞いて、自分の考えを再考することもできていた。
- 手立て1から手立て3により、生徒は資料を読み取り、読み取った内容を活用して多面的・多角的に考察し、考察した内容を発表するという学習の手順を身に付けることができた。

2 課題

- 手立て1において、より深い学びとするためには、活用する資料の更なる工夫(資料の難易度・提示方法など)が必要であると感じた。
- 手立て2において、多面的・多角的に考察するためにはワークシートで整理する項目が多くなる。そのため、生徒によっては読み取った内容をワークシートに整理する際に戸惑っていた。ワークシートの使用方法について、教師による丁寧な説明が必要である。
- 手立て3において、時間が不足していたこともあるが、グループ内だけではなく、クラス全体での発表活動を行っても良かった。今後は発表活動の時間配分を熟慮することが課題である。

実践例

1 単元名 「社会保障」（第3学年・2学期）

2 本単元について

本単元では、諸外国の社会保障制度の種類、現状、特徴、歴史と日本の社会保障の歴史・現状・課題を学習する。そして基本的知識や資料を活用して、今後の日本の社会保障制度を考察することを目標としている。そのためにまず、諸外国と日本の社会保障の歴史を学習し、どのようにして現在の社会保障制度が確立したのかを理解する。その上で諸外国の社会保障制度の類型や特徴を理解し、日本の社会保障制度を考察する基礎を作りたい。日本の社会保障制度については、疾病や出産、障害、加齢など様々な要因により発生する経済的な不安を取り除くなどして生活の安定を図り、人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、現状と課題などを、医療、介護、年金などの保険制度において見られる諸課題を通して理解する。また、その際、少子高齢化の進行や、財政との関連、保険料の負担などとの関係についても考察し、まとめとして、今後の日本の社会保障制度の在り方についても考察したい。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	社会保障の種類、現状、特徴、歴史などの基本的事項について正確に理解する。その上で、多様な観点を持つ資料を活用し、社会保障の在り方について多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現する。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	社会保障の種類・現状・特徴・課題に関心を持ち、理解しようとしている。
	思考・判断・表現	社会保障について多面的・多角的な視点から考え、自分の考えを表現するとともに、他者の考えも参考にしながら自分の考えを深めている。
	資料活用・技能	社会保障についての様々な資料を多面的・多角的な視点から読み取っている。
	知識・理解	社会保障の種類・現状・特徴・課題を正確に理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	・世界と日本の社会保障の歴史・類型・特徴について理解する。
課題 追究	第2時	・諸外国の社会保障制度を比較する。
	第3時	・日本の社会保障の4本柱と社会保障の課題について理解する。
	第4時	・日本の社会保険について理解する。
まとめ (本時)	第5 ～6時	・政府の役割が大きいスウェーデンの社会保障制度と政府の役割が小さいアメリカの社会保障制度から政府の在り方について考える。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画の第5・6時に当たる。これまでの学習で諸外国の社会保障制度の歴史・類型・特徴と日本の社会保障の歴史・現状・課題について学習した。そして本時では、学習課題として「社会保障制度から政府の在り方を考える」を提示し、多様な観点を持つ社会保障の資料を読み取り、その読み取った内容を多面的・多角的に考察し、グループ内で発表する。さらに他者の意見を聞いて再考することにより深い学びになるとともにまとめとしたい。具体的な手立ては次のとおりである。

手立て1

本時の課題を日本と諸外国の社会保障に関連する多様な観点を持つ資料から読み取る。

手立て2

読み取った内容を多面的・多角的に考察するためにワークシートの表にまとめ、「日本は大きな政府と小さな政府のどちらに移行するべきか？」について、自分の考えを記述する。

手立て3

考察した内容をグループ内で発表する。また、他者の意見を聞いて再考する。

4 授業の実際

本時では、日本の社会保障に関する資料や社会保障の国際比較の資料、スウェーデンやアメリカの社会保障の資料を読み取る。そして政府の役割が大きいスウェーデンと政府の役割が小さいアメリカの社会保障を多面的・多角的に考察し、今後、日本がどちらに移行すべきかをまとめグループ内で発表する。更に発表活動で出された意見を再考し、より深い学びとすることをねらいとした。

(1) 多様な観点を持つ資料を読み取る活動

手立て1として用意した日本の社会保障の資料(少子高齢化の状況・社会保障関係費の推移・働く世代の負担増加について)と、諸外国の社会保障の資料(社会保障の国際比較・主要国の社会保障費)を読み取り、読み取った内容をワークシートにまとめた(図1・図2)。

この二つの資料は、手立て2により読み取るポイントをあらかじめワークシート中に示していたので、ほとんどの生徒がスムーズに取り組むことができた。

次に、大きな政府と小さな政府の様子を読み取る活動を行った。ワークシートの資料とともにアメリカやスウェーデンの社会保障の資料映像(医療・老人のインタビューなど)を見て、スウェーデンとアメリカにおけるの長所と短所をまとめた(図3)。

生徒は「スウェーデン」＝「福祉先進国」＝「住みやすい国」という固定観念があったようであるが、必ずしもそうではないという、今までになかった考え方を持つことができた。また、「アメリカ」＝「小さな政府」＝「税金の負担が小さい」というイメージが強かったようであるが、アメリカと日本の医療制度の違いなど、新しい気付きによって、今までになかった考えを持つことができた。

<ul style="list-style-type: none"> ・年少人口(15歳未満)や生産年齢人口(15歳～64歳)が(減少)、老年人口(65歳以上)が(増加)しており、高齢化率が(上昇)している。 ・政府の一般会計総額に占める社会保障関係費の占める割合も年々(増加)しており、2014年で約(31.8)%になっている。特に割合が増えているのは(年金医療介護保険給付費)である。 ・今後日本は、働く世代の負担が(大きく)なり、一般会計総額に占める社会保障費の割合も(大きく)なることが予想される。 <p style="text-align: right;">※()内が生徒の読み取った内容</p>

図1 ワークシートにおける生徒の記述①

<ul style="list-style-type: none"> ・スウェーデンやイギリスは(国・地方の負担(税金))の負担割合が大きく、日本は小さい。 ・スウェーデンやフランスは国民一人あたりの社会保障費が(大きい)。またGDPに対する社会保障費の割合が(大きい)。逆に日本やアメリカは国民一人あたりの社会保障費が(小さく)、GDPに対する社会保障費の割合が(小さい)。 <p style="text-align: right;">※()内が生徒の読み取った内容</p>

図2 ワークシートにおける生徒の記述②

大きな政府の例 ～スウェーデン～

<p>長所(特色)</p> <p>負担が大きい分、保障が手厚く、安心した生活を送ることが出来る。費用ほとんど無料。</p>	<p>短所(課題)</p> <p>・税負担が大きい。 ・給料が少ないため、犯罪が起りやすい。 ・勤労意欲が低下。</p>	<p>家族のほろめ</p> <p>・わがことばかりで、夫業当番など生活しているものが多い。 ・子供がいたと保障がなくなる。</p>
---	--	---

小さな政府の例 ～アメリカ～

<p>長所(特色)</p> <p>→ 最高水準の医療が受けられる。迅速な医療と診断。自由に使えるお金が多い。</p>	<p>短所(課題)</p> <p>高所得者と低所得者と受けられる医療の質が異なり、差が生ずる。個人の責任が大きい。</p> <p>全国民を対象とする公的医療保険は少ない。</p>
--	---

図3 ワークシートにおける生徒の記述③

(2) 読み取った内容を多面的・多角的に考察する活動

ワークシートの中の横列に大きな政府・小さな政府、縦列に長所・短所(それぞれをさらに「生活・福祉面」「財政面」「その他」に分ける)と項目分けした表を使って、(1)で資料から読み取った数々の内容を分類・整理した。その後、この表を活用して「日本は大きな政府と小さな政府のどちらに移行すべきか？」を多面的・多角的に考察し、自分の考えを記述した(図4)。この(2)の活動は、手立て2によるものである。

(3) 考察した内容をグループ内で発表する活動

(2)でワークシートに記述した考えをグループ内で発表した。発表者以外は発表者の意見を聞いて、その内容をまとめる活動を行った。なお、グループ分けをする際に「大きな政府に移行すべき」と「小さな政府に移行すべき」という意見の生徒がほぼ同数になるようにグループ分けを工夫した。このことによりバランスよく意見が出され、次に行った他者の意見に対する自分の意見をまとめる作業にスムーズにつながれた。また、多くの意見が出され、各々の共通点や相違点を見付けることができていた。

その後、他者の意見に対して再考し、自分の意見を深めることもできていた。また、他者の意見に対して自分の意見をまとめる際に「同感」や「同じ意見」というだけの記述ではなく、根拠に基づいて記述できていた(図6)。この(3)の活動は手立て3によるものである。

②大きな政府と小さな政府の長所・短所をまとめてみよう!

制度	大きな政府	小さな政府
例	スウェーデン	アメリカ
長所	生活・福祉面	自由に使えるお金が多い。 富裕層は税金のサービスを受けやすい。
	財政面	国の多岐はあってもいい。 国民の負担は④
	他	失業率が高くて、労働者も下がる。
短所	生活・福祉面	生活面での原則はいい。税金の使い道について自己責任が大きくなる。 貧困層は十分なサービスを受けられないため、福祉⑤
	財政面	国の多岐を増やす。 国民の負担④
	他	政府の多岐は不安定 所得の再分配が少ない 生活に安心感がない。

※所得の再分配・・・累進課税制度と社会保障制度により、自然に所得格差は正されること。
④あなたなら大きな政府と小さな政府のどちらへの移行を進めますか?
⑤理由

結論 ← 大きな政府 → 小さな政府

理由
結論がわかれば、あるほど良いサービスが多い。自由に使えるお金が多い。その分自己責任の割合も大きい。自己責任に入っている人は大分少い。

図4 ワークシートにおける生徒の記述④



図5 グループでの発表活動

自分とは違う他者の考え (大きな政府・小さな政府) 日本よりも教育費の負担が大きい。 職業選択の幅が広がる。	→	その他の考えに対する自分の意見 (大きな政府・小さな政府) 自分の考えを大事にすることを考えたい。 し、将来に備えて準備をしよう。
(大きな政府・小さな政府) もし失業しても保障がしっかりしているから生活できる。	→	(大きな政府・小さな政府) 失業の可能性は低い。でもあつた 保障のことを考えると保障がしっかりしているからいい。

図6 ワークシートにおける生徒の記述⑤

5 考察

手立て1を用いた活動では、多くの生徒が正確に資料を読み取ることができた。また、意見が分かれる資料の読み取りについても他者の意見に頼ることなく意見をまとめることができた。一方で、資料の更なる活用を促すためには、読み取りの時間配分や資料の難易度を生徒の実態に即したものに必要性を感じた。手立て2を用いた活動では、資料から読み取った内容を表にまとめた。決められた時間内での活動であったため、意見をまとめきれない生徒もいたが、全体として項目ごとにしっかりまとめることができていた。一方で多面的・多角的に考察しようとする場合、記述する項目が増え、どこに何を記述するか戸惑う場合があるので、資料活用の視点なども丁寧に指導していくことが必要である。手立て3を用いた活動では、どの生徒も積極的に発表し、他者の考えに対する自分の意見もよくまとめられていたため、学びを深めることができた。一方で、時間的制約により、発表活動がグループ内での発表にとどまり、クラス全体で意見の共有をすることができなかった。クラス全体で共有することで、より一層多面的・多角的な捉え方ができるようになると考える。

6 資料 <ワークシートの一部>

②大きな政府と小さな政府の長所・短所をまとめてみよう！

制度		大きな政府	小さな政府
例		スウェーデン	アメリカ
長所	生活・福祉面		
	財政面		
	他		
短所	生活・福祉面		
	財政面		
	他		

※所得の再分配・・・累進課税制度と社会保障制度により、自然に所得格差が是正されること。

③あなたなら大きな政府と小さな政府のどちらへの移行を進めますか？

結論	大きな政府	←————→	小さな政府
理由			
自分とは違う他者の考え (大きな政府 ・ 小さな政府)		↓ →	その他者の考えに対する自分の意見 (大きな政府 ・ 小さな政府)
(大きな政府 ・ 小さな政府)			(大きな政府 ・ 小さな政府)

